



図 18.13 反応性穿孔性膠原線維症 (reactive perforating collagenosis)



図 18.14 結節性耳輪軟骨皮膚炎 (chondrodermatitis nodularis helicis)  
有痛性結節.

症候群、Down 症候群など) に合併して認められる。D-ペニシラミンによって生じる場合もある。

### 病理所見

真皮上層に変性した弾性線維の蓄積を認め、その上方にある表皮が異常線維を巻き込むように真皮内へ増殖している像が認められる。表皮肥厚や真皮での異物肉芽腫も観察される。

## 2. 反応性穿孔性膠原線維症 reactive perforating collagenosis

体幹や四肢に、角栓を伴う直径 1 cm 程度の硬い茶褐色結節が多発する (図 18.13)。外傷などを契機として膠原線維が変性し、経表皮性排除をきたしたものである。糖尿病や腎不全を背景に生じやすく、<sup>ケブネル</sup> 掻痒が強い。Köbner 現象陽性になることがある。

## 3. 結節性耳輪軟骨皮膚炎 chondrodermatitis nodularis helicis

同義語：慢性結節性耳輪軟骨皮膚炎 (chondrodermatitis nodularis chronica helicis)

耳輪 (とくに上部) に 1 cm 大程度の有痛性の角化性結節が生じる (図 18.14)。日光、外傷、寒冷などの外的刺激によって耳輪軟骨と膠原線維に変性と炎症が生じ、膠原線維の経表皮性排除をきたしたものである。中年以降の男性に好発し、脂漏性角化症、基底細胞癌、有棘細胞癌などの鑑別を要する。治療はステロイドの外用および局所注射、外科的切除を行う。

## D. 肉芽腫性疾患 <sup>にくぐ</sup> granulomatous disorder

サルコイドーシスと  
結節性紅斑

MEMO

### 1. サルコイドーシス sarcoidosis ★

#### Essence

- 原因不明の全身性肉芽腫。
- 皮膚病変は特異疹 (肉芽腫病変) と、反応性の非特異疹 (結節性紅斑などの炎症病変) に大別される。
- 両側肺門リンパ節腫脹 (bilateral hilar lymphadenopathy ; BHL), ぶどう膜炎など。